

グアテマラ内政・外交(2006年9月)

平成 18 年 10 月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

刑務所制度法案等の治安関連法案の成立と軌を一にして、10 年以上も野放し状態にあった凶悪犯収容の大型刑務所への一斉手入れが決行され、また、サンマルコス県やペテン県などの主要な麻薬犯罪組織の拠点・ケシ畑等に対する大規模作戦が開始されたことは、ベルシエ政権の、組織犯罪及び麻薬対策に真剣に取り組み治安を改善しようという強い姿勢の表れと受け止められた。一方で、グアテマラ史上最悪となる多額の現金強奪事件が発生したことは、政府の右取り組みに水を差す結果ともなった。

外交面では、国連総会及び非同盟運動(NAM)諸国首脳会合の場を利用し、ベルシエ大統領、ステイン副大統領及びローセンタール外相が、大詰めを迎えた国連安保理非常任理事国選挙の支持要請活動に集中的に取り組んだ。その他、モラレス・ボリビア大統領が当国を訪問し、第七回ラテンアメリカ先住民基金(FIL)総会に出席し、また、ベルシエ大統領と会談を行ったことは、ボリビアと同様に先住民比率の高い当国で大きな関心を持って報じられた。

2. 内政

(1)閣僚交替人事

(イ)農牧大臣

アギラル前農牧大臣が、次期大統領選挙に関する与党GANAの党内予備選挙出馬に向けた活動を理由に8月31日に辞任したのを受けて、4日、ベルナルド・ロペス農牧次官(農業・官房担当)が新農牧大臣に就任した。

(ロ)厚生大臣

ソーサ大臣は、6月より断続的に続く国内各地の公立病院の医師らによる、恒常的な医療用機材及び医薬品の調達不足の解消等を求めるストライキに対処する中で、8月、ベルシエ大統領に対して辞任を申し出ていたが、大統領はこれを受理し、12日、ビクトル・マヌエル・グティエレス国会議員が新厚生大臣に就任した。

(ハ)大蔵大臣

ベルシエ大統領は、リサルド・ソーサ中央銀行総裁の任期満了に伴い、ポニージャ大蔵大臣を10月より同総裁に任命することを発表。これを受けて、ベテタ経済企画庁(Segeplan)長官が、30日、新大蔵大臣に就任した。なお、新経済企画庁長官には、アナ・パトリシア・オランテス現経済企画庁長官顧問が就任した。

(2)「国民対話」の終了

政府は、①国家の透明性、②保健医療・栄養、③先住民問題、④地方開発の4分野について包括的な国民合意のもとに取り組むことを目的として、農民団体・人権団体・学界関係者他との間で、5月より順次「国民対話」を進めてきたが、28日、右対話は全て終了し、ベルシエ大統領に対して具体的取り組みに関する成果文書が提出された。ベルシエ大統領は、今次合意を高く評価し、右合意分野へ来年度予算を適切に配分していく旨強調した。

(3) 治安関係

(イ) パボン刑務所浄化作戦

グアテマラ県内にあるパボン刑務所は、10年以上にわたり、所内の受刑者間で暴行・恐喝、麻薬・密造酒製造等が行われていた他、所外の犯罪組織と結託し誘拐・麻薬密売等の犯罪拠点となっていた。25日未明、政府は軍・警察から約3000名を動員し右刑務所の浄化作戦を決行、受刑者約1650名を拘束し、隣接する別の刑務所に移送した(受刑者7名が死亡)。今後、同刑務所は、約8ヶ月をかけて改修工事が行われ、管理体制も一新される予定。

(ロ) 治安関連法: 刑務所制度法案及び国立法医学研究所(INACIF)設立法案の可決

7日、懸案であった刑務所制度法が国会にて可決した。同法の施行により、刑務所の管理体制が法的にも強化され、受刑者の矯正・社会復帰プログラムも、規定に従い実施が義務づけられることとなる。また、1日、警察・検察・裁判所間の協力連携による犯罪捜査の効率化等を目的とした国立法医学研究所(INACIF)設立法案が可決し、来年1月に施行されることとなった。

(ハ) グアテマラ国際空港での現金強奪事件: 8.6百万ドルはグアテマラ史上最高額

7日、複数の銀行から回収され米国へ輸送される予定であった多額のドル現金(約8.6百万ドル)を積んだ現金輸送車が、グアテマラ国際空港内にて襲われた。約8.6百万ドル全てが持ち去られ、グアテマラ史上最高額の現金強奪事件となった。今回の犯行には、空港関係者、警備会社職員、元軍人等が関与しているとみられているが、他方で、空港内の日常的な警備体制のずさんさも改めて批判の矢面に立たされている。

(4) 麻薬対策: サンマルコス県、ペテン県及びイサバル県での作戦行動

当国北部ペテン県及び西部サンマルコス県を中心とする地域における、ケシ畑の撲滅・麻薬組織の摘発・違法武器の没収等を目的とした特別作戦行動は8月末より開始されているが(米国も一部協力)、9月上旬、サンマルコス県のみで末端価格約1億ケツアル(約13百万ドル)相当にもなるケシ畑が焼き払われた。9月下旬にはペテン県及びイサバル県での作戦行動(約500名動員)も開始され、複数の麻薬組織の摘発・逮捕が行われるなどした。

(5) 与党GANA党内予備選関連: アギラル前農牧大臣の交通事故

アギラル前農牧大臣は、次期大統領選挙へ向けた与党GANAの党内予備選への出馬のため、8

月に大臣職を辞し、地方遊説等を通じた選挙キャンペーンを展開するなど、ゴンサレス前大統領府官房長官と共にGANAの統一候補の座を争っているが、30日、私用で地方へ車で移動中、自損事故を起こし頭蓋骨骨折の重傷を負った。緊急手術が施され、1日には意識を回復したが、12月3日の予備選を目前に大きなハンディを負うこととなった。

(6) 公立病院の医師らによるストライキ: 解除には至らず

6月より国内各地の公立病院の医師らが、医療用機材・医薬品の調達不足の解消等を求めて突入した外来診療拒否によるストライキは、政府による当該物資の供給が遅々として進まない中、その後も断続的に行われてきたが、政府との交渉が続けられた9月も問題の解決には至らず、同ストも解除されることはなかった。なお、これら公立病院のストに対処するため、現在、国軍病院が外来診療を臨時に受け付けている。

3. 外交

(1) ベルシエ大統領の国連総会出席(ローゼンタール外相同行)

20日、ベルシエ大統領は第61回国連総会で一般討論演説を行った。大統領は、同演説の中で、当国内での和平協定履行状況、ミレニアム目標達成への取り組み、国連改革及び当国が立候補している安保理非常任理事国選挙につき発言を行った他、ベリーズとの領土問題、米国他への移民問題、PKO活動への参加等にも言及。また、滞在中、同大統領はローゼンタール外相と共に、各国に対し安保理非常任理事国選挙に関する支持要請を行った。

(2) ステイン副大統領の非同盟運動(NAM)諸国首脳会合出席(ローゼンタール外相同行)

15-16日、ステイン副大統領は、キューバにて開催された非同盟運動(NAM)諸国首脳会合に出席した。ステイン副大統領及び同行したローゼンタール外相は、118のNAM加盟国代表(首脳又は閣僚等)、12のオブザーバー国及び28のゲスト国の代表が一同に会した今次会合の機会を利用して、グアテマラが立候補している10月の国連安保理非常任理事国選挙に関し、アフリカ諸国を始めとした各国代表に対して精力的な支持要請を行った。

(3) 国連安保理非常任理事国選挙関係: ベルシエ大統領の“失言”報道

ベルシエ大統領は、アナン国連事務総長との会談(19日、於:NY)の後に受けたBBCのインタビューの中で、安保理非常任理事国選挙でベネズエラが当選した場合、安保理が機能不全に陥る可能性がある旨アナン事務総長が発言したと言及。27日、国連は、前述の会談で同選挙問題は話題に上らなかったとしてベルシエ大統領発言を否定、ベルシエ大統領も、報じられた内容は取材記者の誤解に基づくものであると述べるなど釈明に追われた。

(4) ハイチでのPKO活動: 第四次部隊の派遣

グアテマラは国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)に対して、2004年10月より部隊を派遣して

いるが、18日、第四次部隊として交代要員80名が、プエルト・プリンシペに到着した。同部隊は、将校13名、通訳3名を含む合計80名で、国連関連施設他の警備を中心に各種活動に従事する。任務は6ヶ月を予定。なお、9日にはベルシェ大統領出席のもと結団式が行われた。

(5) 第二回中米・カリブ・メキシコ麻薬対策閣僚級会合の開催

18日、当国にて「第二回中米・カリブ・メキシコ麻薬対策閣僚級会合」が開催された。同会合では、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ、ドミニカ(共)、ベリーズ、ハイチ、メキシコ、ベネズエラ、コロンビアの国防・内務・司法の各大臣他が出席のもと、麻薬取引及び麻薬関連犯罪についての各国の取り組み等が紹介されると共に、今後の域内協力について協議が行われた。

(6) 第七回ラテンアメリカ先住民基金(FIL)総会の開催

12日、当国にて「第七回ラテンアメリカ先住民基金総会」が開催され、加盟各国からの先住民団体及び政府・国際機関関係者らの出席のもと、先住民の移民、教育、保健、文化、開発等に関し、協議が行われた。開会式にはベルシェ大統領、モラレス・ボリビア大統領(特別ゲスト)の他、モラレス大統領と対外債務問題について協議を行うために当国に駆け付けたボラーニョス・ニカラグア大統領及びセラーヤ・ホンジュラス大統領も参列した。

(7) モラレス・ボリビア大統領の当国訪問

モラレス・ボリビア大統領は、上記FIL総会開会式に先立ちベルシェ大統領との二国間会談の他、当国先住民団体等との意見交換、更に、ボラーニョス・ニカラグア大統領及びセラーヤ・ホンジュラス大統領と対外債務問題について協議を行った(ベルシェ大統領同席)。モラレス大統領はベルシェ大統領との会談で、先住民の政治参加の促進、グアテマラの内戦時代にボリビアへ渡ったグアテマラ人移民の帰還問題等について意見交換を行った。

(8) アセーニャ教育大臣の訪日

アセーニャ教育大臣は、9月10日から12日の日程で京都にて開催された「第3回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」(主催:京都府、京都市、京都商工会議所)に出席するため、日本を訪問した。今次フォーラムは、「IT社会の未来と人間の生き方」をテーマに公開シンポジウムの形で進められ、アセーニャ大臣も積極的にこれに参加した。